

# 横浜貿易建物株式会社(横浜ビル) “排出ゴミの取り組み”について



## ◆3種類 から 25種類へ

横浜ビルでは2005年3月に開催したごみ分別説明会をきっかけとして、それまでは「缶・瓶、ペットボトル、それ以外」という3種類のみの仕分けを細分化するという取り組みを始めました。まず、一般ごみのうち約6割を占める紙類の分別から始め、現在紙類の分別だけでも、8種類となっています。その後、プラスチック類（特に弁当の空き容器）を水洗いし、蛍光灯など資源化できるものを分別、生ごみの堆肥化も委託しています。さらに、ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちにワクチン接種を広める運動に協力するなど、現在は全部で25種類に分別し、“できるだけリサイクル”を目指しています。しかし、その中でもどうしても焼却処分（廃棄処分）するものがです。それは堆肥化できない生ごみやたばこの吸い殻などで、当社ではその部分にも着目し、水切りの徹底を図り、食べ残し自体も減らすよう、ビル内飲食店には「食べきり協力店」に登録をしてもらうなど、焼却処分量を減らすようにしています。

### リサイクルできるものは全てリサイクルする！！



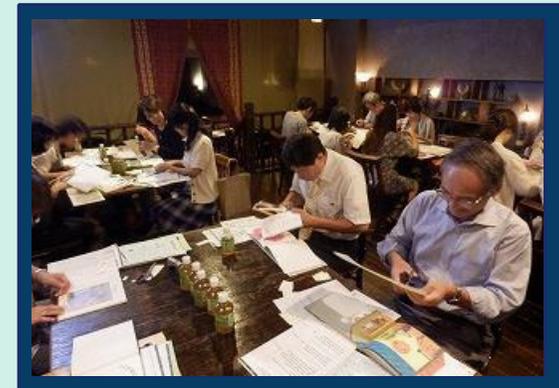
## テナントと取組んだ分別

・ごみの分別を3種類から25種類までに細分化させることに成功した要因は「環境委員会」の設置をしたことにあります。テナント各社から担当者を1名選任いただき、横浜ビルの取り組みの周知をお願いしました。各回テーマを決め、例えば「廃棄物処理施設の見学会」を開催した回もあります。実際に自分達の出したごみが何処で、どのように処理をされ、リサイクルに至るのかを間近で確認いただきました。その他ビルのごみ仕分け状況を報告する回など、取組みの一つ一つがご協力に結び付いたのではないかと感じています。

また、定期的なビル周辺の歩道清掃や根本に現地語のシールを貼り、発展途上国へ送る“絵本の訳語貼り”ボランティアなど、環境活動・社会貢献にもテナントの皆さんと一緒に取り組んでいます。ビル内の取組みが、家庭に、いつしか社会に良い影響をもたらす要因になれば、という期待も込めて、今後も続けてまいります。



▲ 給湯室ゴミの分別



▲ 絵本の訳語貼り